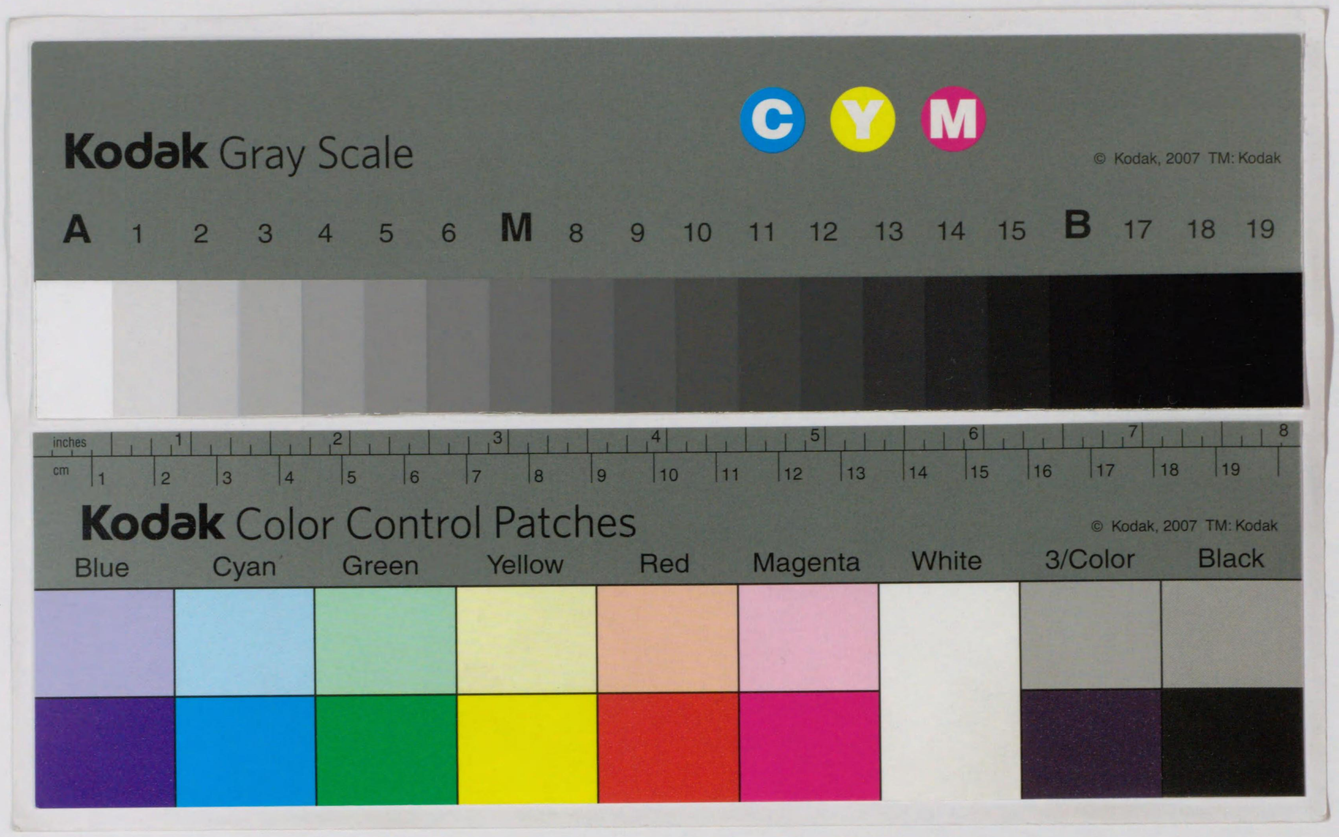


162 86

雅竹堂所藏 附錄

162-86

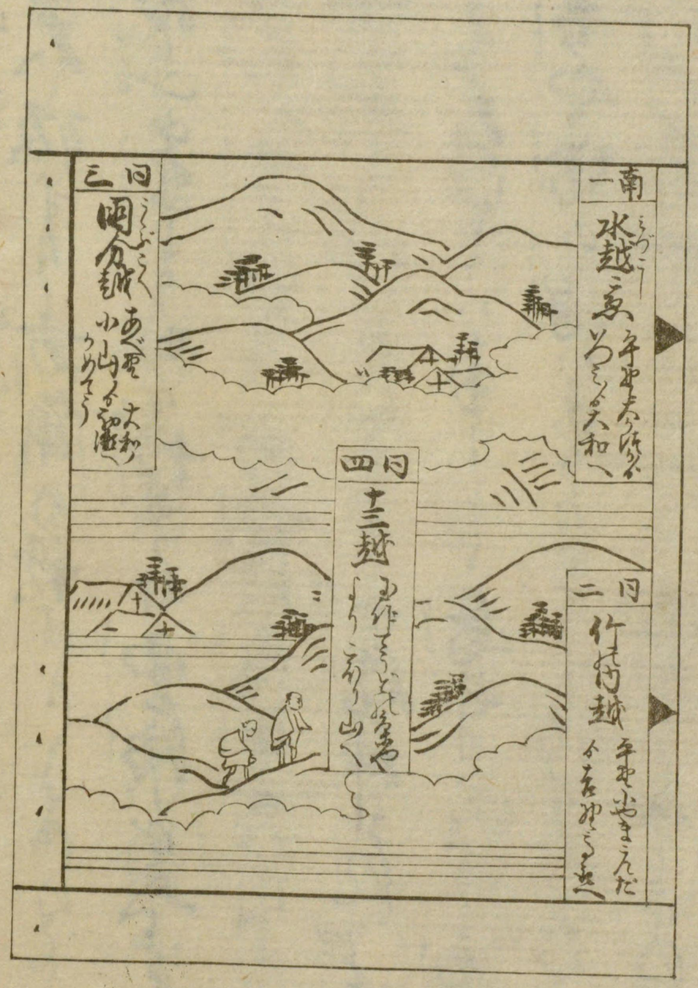
帝國圖書館藏

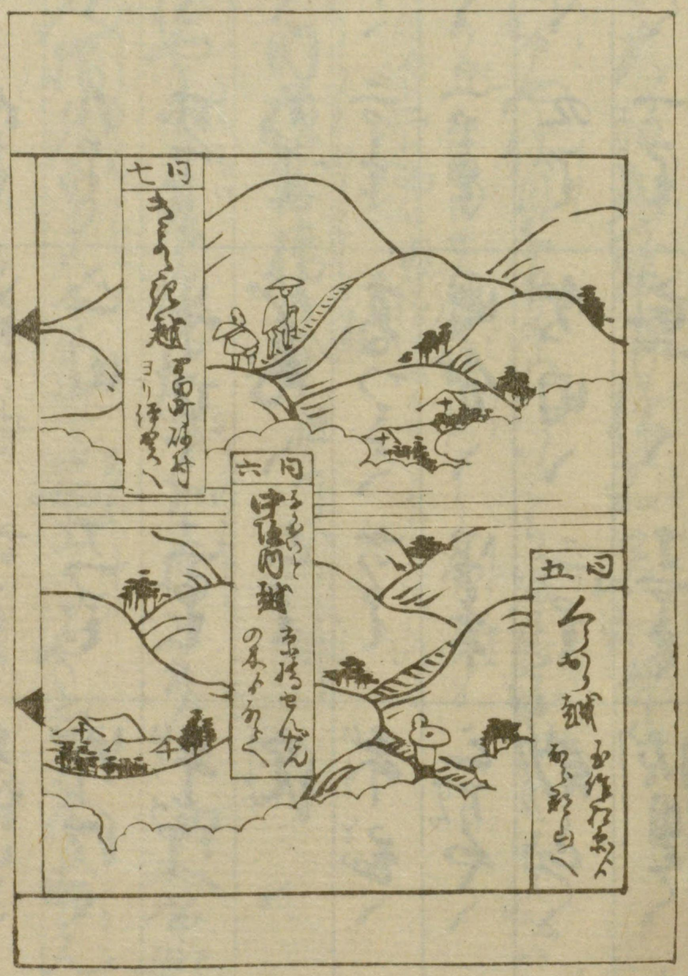
今宵小歌を謡ひ舞ひ遊び寝ん
名を稀男とて
男一人あり

○近江高分村より出る米穀の
事
○町筋を高くし家作を
○民のうち
つき町並屋
ま世帯
ねがわくは
たまりいる
もあんと

△河内より大和へ越る道

右七ツ





○大坂より伊賀へ

屋敷 七軒	北ニ	神明 二軒	北ニ	竹ノ内	北ニ	進
足袋屋 三軒	南ニ	兩替 六軒	南ニ	兩替	南ニ	
町屋 十二軒	北ニ	旅籠 十軒	北ニ	作兵衛	北ニ	
茶屋 六軒	南ニ	菊屋 六軒	南ニ	菊屋	南ニ	
湯屋 一軒	北ニ	三田 十二軒	北ニ	辨慶	北ニ	
医者 一軒	南ニ	手習 二軒	南ニ	尾	南ニ	
町屋 二軒	北ニ	尾 二軒	北ニ	高つき 六軒	北ニ	
侍 一軒	南ニ	町屋 二軒	南ニ	町屋	南ニ	
茶屋 一軒	北ニ	町屋 二軒	北ニ	京 十二軒	北ニ	
長屋 一軒	南ニ	京 十二軒	北ニ	侍屋敷	南ニ	

△大阪道 并橋 名知ず

△左ハ江戸道 此間 町屋

・上の方ハ 橋場 迄

・下の方ハ 四條 迄

○四條橋の分 但 掛

北ニ

△今橋や 高麗ニ 至る

△農人橋 久宝寺 迄

○大宝寺橋の分 但北ノ通

東ニ

△京橋や 天満 神ノ 橋

△淀屋橋 此所ニ 南ニ

東よう

△樋の名はんさい橋にあらだーや大江橋の橋

○仲貝寄の橋 分 但右同

△樋よりうぐそうの鳥ぶれだーや橋

○あまさき橋の分 但右同

△樋の名清そこだーや中ほり橋大坂町より

○いそう鳥橋の分 但右同

△樋乃名つだーや橋の北橋大坂町

○善兵衛橋の分 但右同

・内橋筋ようの事

東よ

△大手馬や善兵衛橋より中だーにまのやだー

△くまそのそこの橋うそ橋

○通町橋の分 但右同

同

△大和橋中橋より西南のうおだおり

△大手馬西へそびすうだ橋

○天満橋門橋の分 但西より北

南より北へ

△やそう橋ひのやだーや橋

無橋まで百間ありそのへそびすう

○町中筋の事 但東より西へ

△ 海岸の鳴尾などうの小
△ 打出分いでや小新うぢや町あ
△ 浦風分ととろとも傳んまうこ
△ 町といひて久寿う町あぐ
○ 内宿のうしやで町名
△ 宮前ごとでうとも傳うこと
△ 本町うまおよ町名
△ 海岸辛町浦辺よ
△ 南分まるばくらぢもんけ
○ 長屋うり南町名

△ うること名大分まるせこすまう久宝藤こと安政
○ 西宿宿より西ごと名
△ 古作屋ふ分一軒ぢ沼へ
△ 新屋屋分ごとが新生やの町の南のはとり川
△ わくび町ごや町おびやいづこ町いこうりそ屋ごと
△ 新町やおの南そこと町長宿ますくを通とん
○ 東宿東門浦より南
△ 東町ごと千間より十二
・並千間六ご宿ごと
・十千間いごと神ますご

△小平同町ヨリ南ノ方ニ當リ町ノ東ニ當リ新ニ設ケタル町
△堂ノ前ノ大工ノ町ヨリ西ノ方ニ當リ沢ヲ埋メ一面ノ町ナリ
△源兵衛町ヨリ北ノ方ニ當リ新ニ設ケタル町
△高町ヨリ南ノ方ニ當リ新ニ設ケタル町ニシテ有馬ヨリ出ル湯ノ通リ
△小土手ヨリ南ノ方ニ當リ新ニ設ケタル町
△又三郎津ノ間ヨリ南ノ方ニ當リ新ニ設ケタル町
△祇園ヤノ裏ノ町ヨリ東ノ方ニ當リ大工町ヨリ南ノ方ニ當リ新ニ設ケタル町
△農人町次ノ町ヨリ東ノ方ニ當リ新ニ設ケタル町
△新ラヤ横丁ヨリ南ノ方ニ當リ新ニ設ケタル町

大体ニ於テ属西町数

合四百七十町

東ノ一	西ノ三	西ノ五
玉川町 南ノ方ニ當リ百三十間	堺町 南ノ方ニ當リ百三十間	南風呂ハ 南ノ方ニ當リ小土手ヨリ一丁上ル
西ノ二	西ノ四	西ノ六
下ノ神楽ハ 南ノ方ニ當リ小土手ヨリ	せんだの小路ハ 東ノ方ニ當リ南ノ方ニ當リ	清屋ヨリ 東ノ方ニ當リ

○北南町ニ當リ町ノ数

合百三十町

右ノ外市中ニ當リ町ノ数

○ 糸引き縒り

上荷糸　千三百本　千綛

（但し八石つゝ）

二番大　三百本　綛

小　三百本　綛

（但し百八十匁より百五十匁まで）

二番　百本　三綛

（但し百五十匁より百匁まで）

七番　九十綛

六番　八十綛

釜水　千綛

三百本七綛有

百本一六綛有

半一七綛有

勉学一綛

加糸一百二綛

又　駄賃馬　三綛

△二番引　三百本

○角金三本　四人

○造筒　百本掛

○掛糸丹ゟ取　二人

○けんさき半ゟ取　二人

○かなあとより　二人

○糸取　三人

○上荷半ゟ半ゟ取　四人

○半糸取　二人

○釜前半ゟ取　二人

○ゟあとより　二人

△御用聞

大工　鳴物

左官　人宿

石や　五目

油屋　六目

鞠や　みせ物

○大道具屋の名

同幸寿人

髪師　屋敷

手習　素人

うぢ　多賀

道具屋人　高橋

天屋弁当

同　寿司

同幸寿

同幸蔵

同大津屋

かく屋町

南ほんや町

たて屋

扇屋

筆師屋

こて屋

柳屋

相屋

新町
葛西村
清村
多々野
江ノ利
ぼだい寺

合十四村

いせ屋
蓼屋
らっきょ屋
茶屋
下駄屋
たばこ屋

右ハ再返可申候ニ付而ハ清右衛門
いてまいりひるの弁当ハ出ス事ニ
ひるの見世ごしらへ有之候ハヽ
延宝六午年物入
又六覚書

162
86

芦雪庵雑集

暑に「蘆分船」「雛鶴鑑」とを刊行〻以て大阪に於ける石版地誌の白眉たる両書の復本を完成したるが、それ「蘆分船」には「附録」一冊ありと聞くも紙数多きがため割愛して之を原本は好事者間にも目録を一人稀なりとの事に、百未種となる」の面を捜索中最近にまり故松岸義路氏の蔵書中に其写本ありと傳聞するよしならば、たゞ〻大阪府立図書館にも貴重品として備付の一本ありと聞き、ことさら恍覚せしに是亦写本なりと雖も臨写の筆蹟殊に美事にして殆ど原本の面影をさへ伝へるものと推測さるゝにより、茲に同図書館の承諾を経、複刊して以て「蘆分船」の完璧を期することゝなせり、

大正甲子仲秋

だるまや書店主人
木村助次郎 誌

大正十三年九月廿五日印刷
大正十三年十月五日發行

大阪南区南炭屋町廿五番地
編輯印刷兼發行者 木村助次郎

大阪南区八幡筋本綿摂ホ六
發行所 だるまや

電話南四九四九番
振替口座九一七八番